

地域コミュニティ再生プロジェクト 未完成カフェ+

高校生ボランティア・アワード2024

桜井市立図書館とコラボ2年目！

「未完成カフェ+」

活動概要

2022年度、総合ビジネス科の先輩たちが『実学』の授業で、自分たちの周りにおける解決したい社会課題について、「自分たちが何ができるか」を考え、たどり着いたテーマが「地域コミュニティの再生と異世代交流」でした。2023年度、地域活性化に取り組み部活動「部局たまつえ」とタッグを組み、桜井市立図書館とのコラボ企画を実施しました。今年度も引き続き桜井市立図書館にご協力いただき、「未完成カフェ+」を開催しています。

図書館でのイベント

桜井市立図書館は、多くの人々が一度に集える広さがあり、子供からシニア世代まで、誰もが自由に訪れることができる場所です。さらには180台収容できる駐車場があり、本の読み聞かせや地域の様々な情報を把握することができ、人が集まる仕掛けがあります。これらの特徴は、心地よい居場所づくりをするにあたってふさわしいと考え、桜井市立図書館のご協力をいただき開催させていただきます。



画像引用元：桜井市立図書館ホームページ



カフェでくつろぐ方々



ワークショップ
絵の本ひろば



オリジナルの傘を作る
ワークショップ



受付・案内所の様子

「地域コミュニティの再生」と 「異世代交流」

地域活性化が求められる今、私たちは、既に住んでいる方々の孤独感を解消して市内全体に温かい雰囲気を作ることも地域活性化への第一歩になると考えました。温かい地域を育てるには、若い世代から高齢者の方まであらゆる市民が交流できる居場所づくりや地域コミュニティの再生が必要だと考え、「未完成カフェ+」の軸となるテーマとしました。



「未完成カフェ+」 名前の由来

「未完成カフェ+」という名前にしたのは、これから新たに始めることで、地域の皆さんと作り上げていきたいという思いからです。「本のあるみんなの居場所」としてリラックスして過ごせる空間、生活の中の小さな「あったらいいな」を図書館に取り入れる。そして図書館が地域のプラットフォームとしてコミュニティを育む場となり、さまざまな年代の方が集える場となればと考えています。

落ち着いた雰囲気でもリラックスして過ごせるカフェのように、肩の力を抜いてゆっくり話ができる、そのような温かい居場所を作り上げていきたいと考えています。



お仕事体験の目

①子供に「働くこと」を経験してもらう

求人を見て、お仕事スペースで働き、お給料をもらって、税務署コーナーに行く。こういった「働くこと」の一連の流れを子供たちが体験できるように、それぞれのコーナーを作りました。子供の経験充足の機会となることをめざしました。求人ポスターも小学生が興味をもてるようなデザインを意識しました。



求人コーナー

②異世代交流

小学生がお仕事スペースで働くことで、シニア世代や子育て世代など様々な世代のお客さんと交流することができます。また、私たち高校生も、お仕事をすると小学生や、来場されたお客さんとの交流ができるので多様な異世代交流を実現できるイベントとなっています。大人世代にとっては働いている小学生と交流することで、元気や生きる活力がさらに得られるのではないかと考えています。



様々な世代の交流

「小学生のお仕事体験！」

◎ 1回目 ◎ 令和5年7月23日
予想外の約1500人が来場！

夏の開催となったこの「未完成カフェ+」では夏祭りをテーマにして焼き鳥・たこ焼き・フライドポテトの屋台、クリームソーダ等を提供するカフェ、ヨーヨーすくいの縁日などを企画しました。お仕事スペースとして小学生が屋台や各ブースで働き、高校生がそのサポートをしました。学校で学んだ計算を使いながらお金の勘定を頑張る子や、大きな声で笑顔満開でお店の宣伝をする子などで溢れ、想像以上の賑わいとなりました。

小学生は100人を超える応募があり、イベント来場者は合計1500人を超える結果となりました。お仕事スペースでは、シニア世代や大人世代と小学生の交流がいくつも見られました。体験を終えた小学生からは、「楽しかった！」「体験した職業をめざしたい！」などの感想をいただきました。



◎ 2回目 ◎ 令和5年11月18日
オープンスクールと同時開催！

11月開催の未完成カフェ+は奈良県立商業高校のオープンスクールと同時開催となり、図書館と学校をつなぐバスで多くの来場者でにぎわいました。

地域のレストランやカフェのご協力によるスイーツ販売、福島県応援フェアとして特産品の販売、全国の実業高校から取り寄せた物産品の販売など、販売ブースがお仕事体験のメインとなりました。また、ストラックアウトなどの屋内ゲームコーナーもお仕事スペースとなりました。

大人のお客さんに向けて「いらっしゃいませ！」とアピールをする小学生の子供たちが多く、「また来たい」と言ってくれた子どももいました。また、ゲームコーナーでは働く小学生とお客さんの小学生との同世代交流もみられました。



「2年目も居場所をめざして」 当日の様子(令和6年5月25日実施)

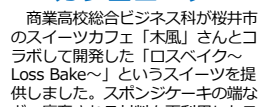
◎ 販売ブース ◎ ◎ ワークショップ ◎ ◎ カフェコーナー ◎

「全国高校生物産展」として全国の実業高校の特産品を販売しました。スーパーでは見かけない商品に興味津々な方もいらっしゃいました。

店員とお客さんという立場の中で、私たちにあって普段お話しする機会が少ないシニア世代や子育て世代の方々と交流できる時間となりました。



「縁日」では子供たちが「まだとれる！」「この色をとりたい！」と一生懸命スーパーボールすくいに挑戦している姿が多くみられました。その姿を、私たち高校生や保護者の方が応援しながら見守ると、ほっこり温かい雰囲気を感ずきました。



商業高校総合ビジネス科が桜井市のスイーツカフェ「木風」さんとコラボして開発した「ロスバークーロス Bake〜」というスイーツを提供しました。スポンジケーキの端など、廃棄される材料を再利用したスイーツに、関心を示す方もいました。

サードプレイス(第3の居場所)を作る

今回『地域コミュニティの再生と異世代交流』をテーマに取り組んでいますが、この桜井市立図書館が桜井市民の『サードプレイス』になって欲しいのです。自宅や学校・職場以外に居心地のいい場所になり、新しい価値観や人とのつながりを得ることができる。疲れたときにふと立ち寄れる場所、そんな心ふるさとを作りた。私たち自身も、そういう居場所を作れたら、きっとこの経験が今後に大きく生きて、何かあったときに高校時代を振り返り、思い出すことのできる場所がある。その時、心ふるさとがその一歩を軽くするのではないかと考えています。

未完成のピースが集まっていくように、地域のローカルプレイヤーがつながり、さらに多くのアイデアが集まり、地域をデザインすることができると考えています。2年目となり、「昨年のイベントをみて今年も来たい」「今回もワークショップに参加したい」というお声もいただきました。みんなの居場所をつくれるように、これからも頑張っていきます。



奈良県立商業高校は令和3年4月に1期生が入学しました。総合ビジネス科と部局たまつえと一緒に地域コミュニティ再生プロジェクトとして、この『未完成カフェ+』に取り組んでいます。

現在、総合ビジネス科の3年生は次の『未完成カフェ+』に向けてグループに分かれ、企画を構想しています。7月にはお仕事体験を予定しており、屋台の企画等を進めています。

部局たまつえでは、毎回違う楽しみを提供するため、ワークショップを各開催ごとに考えています。夏祭りイベントやさまざまな年代の方に楽しんでいただくよう、そして交流をもっていただけようみんなでイベントを企画し盛り上げていきます！